

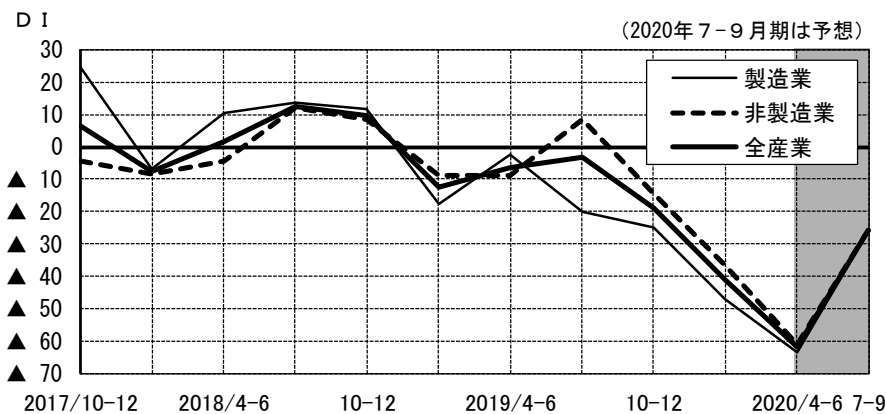
業況概要

～全産業DIは、リーマンショック後の最低値に並ぶ低い水準～

静岡県東部地域における2020年4-6月期の業況判断DI（全産業：前期比）は、3期連続で大幅な低下となり、景況感の悪化がさらに進んだ（前期▲41.0→今期▲62.1：以下同様）。この値は、リーマンショック発生後景況感が最も悪化した▲62.4（2009年1-3月期、ただし前年同期比でのDI）と並ぶ低い水準となっている。また、業種別でも、製造業は▲47.1→▲63.5と4期連続の低下、非製造業は▲36.6→▲61.1と3期連続で低下し、ともに▲60を下回る低い水準となっている。

2020年7-9月期の予想DI（今期比）は、製造業（▲26.2）、非製造業（▲25.6）、全産業（▲25.8）と、今期比では上昇に転じる見通しであるが、いずれも▲20以下の水準にとどまっている。

《業況判断DI推移》



DI：ディフュージョンインデックス (Diffusion Index) の略。

「上昇、増加、好転」した企業割合から「下降、減少、悪化」した企業割合を差し引いたもので、業況判断を見る指標。

《業種別天気図》

	業況上昇 ←				→ 業況下降			
	製造業	食料品	パルプ・紙・紙加工品	一般機械器具	非製造業	卸・小売・サービス	旅館・その他宿泊所	建設
2020年1-3月期	☔	☔	☔	☔	☔	☔	☔	☀️
2020年4-6月期	☔	☔	☔	☔	☔	☔	☔	☔
2020年7-9月期	☔	☔	☔	☔	☔	☔	☔	☔

※2020年1-3月期、4-6月期は前期比。2020年7-9月期は今期比予想

《調査の概要》

- | | |
|--|---|
| <p>1. 調査目的
静岡県東部地域（富士川以東）の景気動向と先行きを予測し、主要産業の実態を把握</p> | <p>3. 調査方法
当研究所の指定した項目につき、記名式で実績と見通しを記入するアンケート調査</p> |
| <p>2. 調査対象企業
静岡県東部地域に立地する企業 443社
回答企業数 211社（回答率 47.6%）
※業種別企業数は4ページ参照</p> | <p>4. 調査対象期間
実績：2020年4-6月期
見通し：2020年7-9月期</p> |
| | <p>5. 調査時点
2020年5-6月</p> |

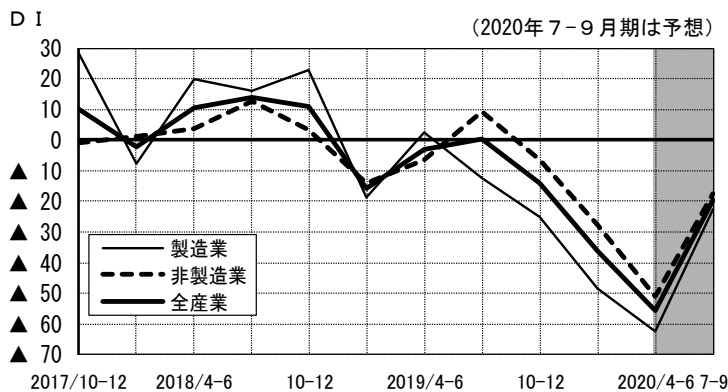
売上動向

製造業、非製造業ともDIの低下が続き、来期も「減少」水準

2020年4-6月期の売上動向DI（全産業：前期比）は▲55.5と3期連続で低下、また前期（▲36.2）からは20ポイント近い大幅な低下となっている。業種別にみると、製造業では金属製品（▲71.4→▲84.6）、その他製造業（▲17.2→▲70.4）、パルプ・紙・紙加工品（▲70.0→▲66.7）などいずれも▲40以下の水準にあり、全体でも▲62.4と4期連続で低下となった。一方、非製造業では卸・小売・サービス（▲42.2→▲61.1）、建設（12.1→▲25.0）とも低下しており、特に旅館・その他宿泊所（▲83.3→▲100.0）では回答のあった全企業で売上が低下している。

2020年7-9月期の予想DI（今期比）は、製造業（▲22.4）、非製造業（▲17.6）、全体（▲19.5）と今期より大幅に上昇するものの、いずれも▲20前後にとどまり、「減少」水準が続く見込みである。

《売上動向DI推移》



売上動向DI	前期	今期
製造業計	▲ 48.3	▲ 62.4
食料品	▲ 28.6	▲ 42.9
パルプ・紙・紙加工品	▲ 70.0	▲ 66.7
金属製品	▲ 71.4	▲ 84.6
一般機械器具	▲ 80.0	▲ 47.4
その他製造業	▲ 17.2	▲ 70.4
非製造業計	▲ 27.6	▲ 50.8
卸・小売・サービス	▲ 42.2	▲ 61.1
旅館・その他宿泊所	▲ 83.3	▲ 100.0
その他卸・小売・サービス	▲ 35.9	▲ 55.7
建設	12.1	▲ 25.0

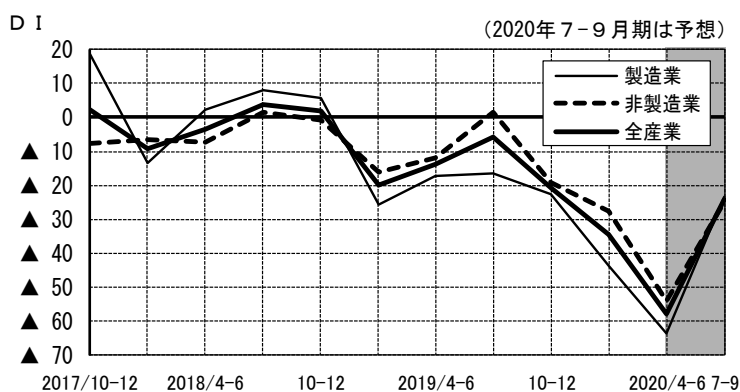
利益動向

製造業、非製造業ともDIの低下が続く

2020年4-6月期の利益動向DI（全産業：前期比）は、業況判断、利益動向DIと同じく、大幅な低下となっている（▲34.3→▲57.8）。業種別にみると、製造業では金属製品（▲57.1→▲84.6）、一般機械器具（▲80.0→▲68.4）、パルプ・紙・紙加工品（▲30.0→▲66.7）など、食料品（▲57.1→▲35.7）を除いて▲60以下の低い水準となり、製造業全体でも▲43.7→▲63.5と3期連続で低下が続いている。また、非製造業でも卸・小売・サービス（▲36.7→▲64.4）、建設（▲3.0→▲27.8）とも前期比で低下し、特に旅館・その他宿泊所（▲66.7→▲100.0）は全回答企業で利益が低下している。

2020年7-9月期の予想DI（今期比）は、製造業（▲23.5）、非製造業（▲24.8）とも上昇し、全産業では▲24.3となっているが、いずれも▲20を下回り、「減少」水準が続く見込みとなっている。

《利益動向DI推移》



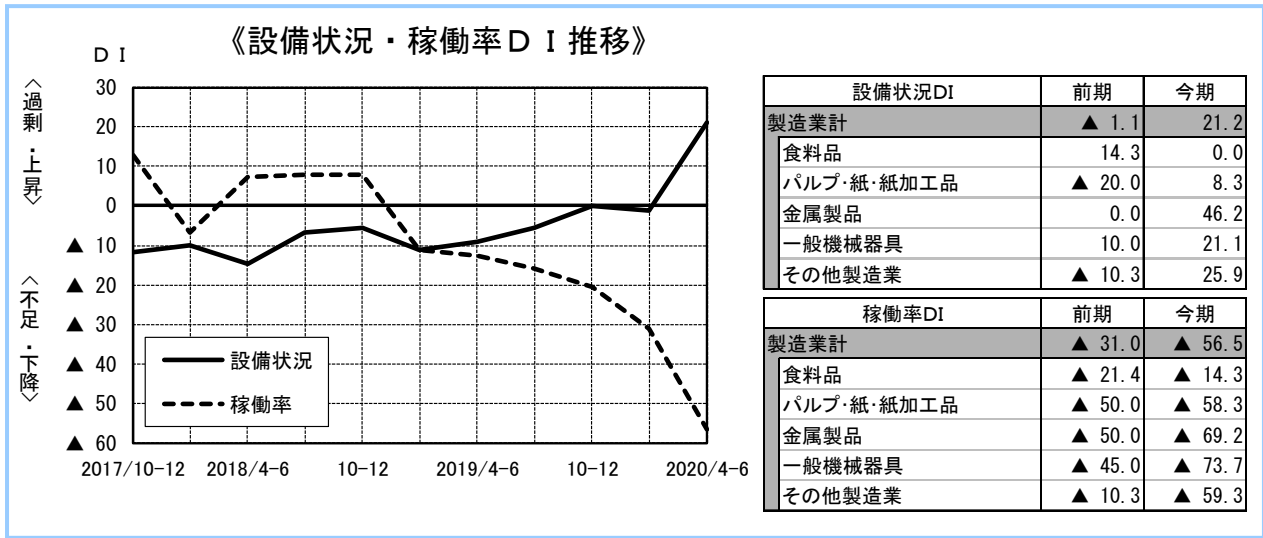
利益動向DI	前期	今期
製造業計	▲ 43.7	▲ 63.5
食料品	▲ 57.1	▲ 35.7
パルプ・紙・紙加工品	▲ 30.0	▲ 66.7
金属製品	▲ 57.1	▲ 84.6
一般機械器具	▲ 80.0	▲ 68.4
その他製造業	▲ 10.3	▲ 63.0
非製造業計	▲ 27.6	▲ 54.0
卸・小売・サービス	▲ 36.7	▲ 64.4
旅館・その他宿泊所	▲ 66.7	▲ 100.0
その他卸・小売・サービス	▲ 32.1	▲ 59.5
建設	▲ 3.0	▲ 27.8

設備状況・稼働率
(製造業)

設備状況は一転して大幅な「過剰」。稼働率は「下降」が続く

2020年4-6月期の設備状況DI（製造業）は、前期の「不足」から一転し、大幅な「過剰」となった（▲1.1→21.2）。業種別にみると、食料品（14.3→0.0）のみDIが低下して「適正」となったが、他の業種はいずれも「過剰」となっており、特に金属製品（0.0→46.2）、その他製造業（▲10.3→25.9）、パルプ・紙・紙加工品（▲20.0→8.3）では前期比20ポイント以上の大幅な上昇となっている。

稼働率DI（製造業：前期比）は、前期比20ポイント以上の大幅な低下で、6期連続で「下降」となった（▲31.0→▲56.5）。業種別にみると、食料品（▲21.4→▲14.3）のみ前期比上昇となったが、他の業種ではDIがいずれも下降し、▲50を下回っている。特に、その他製造業（▲10.3→▲59.3）、一般機械器具（▲45.0→▲73.7）では前期比20ポイント以上の低下となっている。

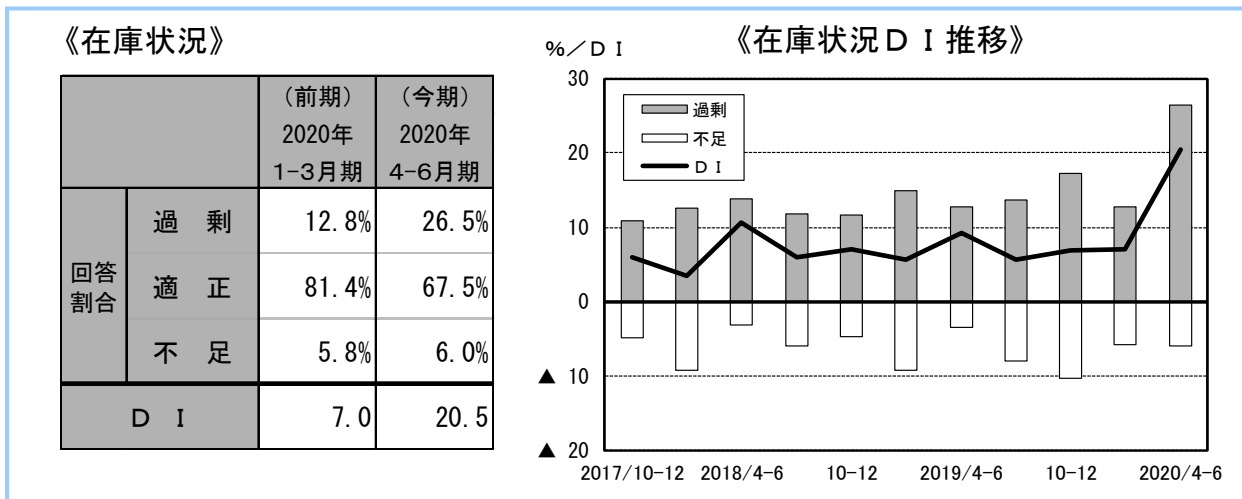


在庫状況
(製造業)

DIは10ポイント以上上昇し、「過剰」感が強まる

2020年4-6月期の在庫状況DI（製造業）は、「過剰」とする企業の割合が前期比上昇（12.8%→26.5%）したことから、DIも7.0→20.5と10ポイント以上上昇し、「過剰」感が強まっている。

業種別では、全業種でDIがプラス水準にあり「過剰」の判断となっている。うち、パルプ・紙・紙加工品（20.0→8.3）ではDIが前期比低下したが、で推移したが、食料品（0.0→38.5）、一般機械器具（5.3→27.8）、金属製品（7.1→23.1）、その他製造業（6.9→11.1）はいずれもDIが前期比上昇し、「過剰」感が強まっている。

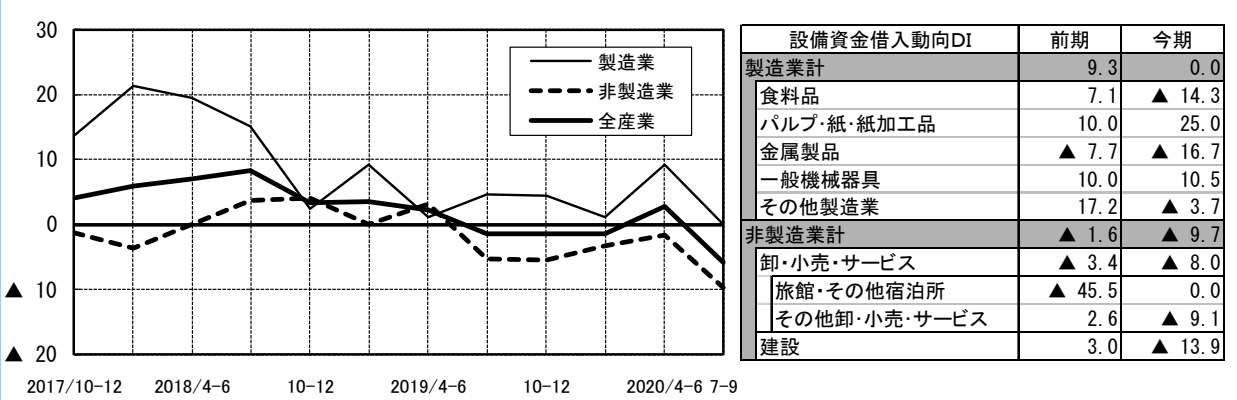


設備資金借入
動向(来期)

製造業、非製造業とも前期比低下に転じる

2020年7-9月期(来期)の設備資金借入動向DI(全産業)は、前期比低下に転じ、2期ぶりに「借入減少」超に転じる見通しである(2.9→▲5.8)。業種別でも、製造業(9.3→0.0)、非製造業(▲1.6→▲9.7)とも前期比低下に転じ、非製造業では「借入減少」超の状態が続く見通しである。

《設備資金借入動向DI推移(見通し)》※すべて「来期の見通し」について調査
(例:2020年7-9月期の見通しは、2020年4-6月期時点の調査結果による)



経営上の問題点

「受注・売上の停滞・減少」の回答割合が全体の約3分の2に

「受注・売上の停滞・減少」の回答割合が51.9%→64.9%と前期比10ポイント以上上昇し、全体の約3分の2に達している。一方で、「人材の育成」、「従業員の高齢化」、「求人難」、「人件費の増加」など人材・雇用に関する項目の割合は前期比低下しており、特に「求人難」は前期比約15ポイント、「従業員の高齢化」、「人件費の増加」は同約6ポイントの低下となった。

《経営上の問題点(上位8項目)》 (複数回答可)

順位	問題点	2019年 10-12月期		2020年 1-3月期		2020年 4-6月期		順位 変動
		企業数	割合	企業数	割合	企業数	割合	
1	受注・売上の停滞・減少	100	47.4%	109	51.9%	137	64.9%	→
2	人材の育成	100	47.4%	86	41.0%	82	38.9%	→
3	従業員の高齢化	71	33.6%	72	34.3%	59	28.0%	→
4	求人難	76	36.0%	71	33.8%	39	18.5%	→
4	人件費の増加	55	26.1%	52	24.8%	39	18.5%	↑
4	過当競争・製品安	32	15.2%	31	14.8%	39	18.5%	↑
7	その他経費の増加	36	17.1%	36	17.1%	36	17.1%	↑
8	生産・販売能力の不足	35	16.6%	42	20.0%	34	16.1%	↓

(回答企業数:211) (回答企業数:210) (回答企業数:211)

《業種別回答企業数およびDI》 ※借入動向(設備資金)は来期の見通し、それ以外は今期実績

業種	回答 企業数	DI						
		業況判断	売上動向	利益動向	設備状況	稼働率	在庫状況	借入動向
全産業計	211	▲62.1	▲55.5	▲57.8	-	-	-	▲5.8
製造業計	85	▲63.5	▲62.4	▲63.5	21.2	▲56.5	20.5	0.0
食料品	14	▲21.4	▲42.9	▲35.7	0.0	▲14.3	38.5	▲14.3
パルプ・紙・紙加工品	12	▲83.3	▲66.7	▲66.7	8.3	▲58.3	8.3	25.0
金属製品	13	▲76.9	▲84.6	▲84.6	46.2	▲69.2	23.1	▲16.7
一般機械器具	19	▲63.2	▲47.4	▲68.4	21.1	▲73.7	27.8	10.5
その他製造業	27	▲70.4	▲70.4	▲63.0	25.9	▲59.3	11.1	▲3.7
非製造業計	126	▲61.1	▲50.8	▲54.0	-	-	-	▲9.7
卸・小売・サービス	90	▲70.0	▲61.1	▲64.4	-	-	-	▲8.0
旅館・その他宿泊所	11	▲81.8	▲100.0	▲100.0	-	-	-	0.0
その他卸・小売・サービス	79	▲68.4	▲55.7	▲59.5	-	-	-	▲9.1
建設	36	▲38.9	▲25.0	▲27.8	-	-	-	▲13.9